

第110番組審議委員会議事録

日時：令和6年5月15日（水）13時30分～

場所：市民活動センター/コミュニティ f（富士市吉原2丁目10番20号）

1. 委員総数8名
2. 出席人数4名
3. 出席委員の氏名

稲葉美津江 委員長・長橋順 副委員長・内藤祐樹 委員・吉野渉 委員

4. 放送事業者出席者名

小沢教司 代表取締役社長

山本茂 放送局長

山本局長：本日はお集りいただき、ありがとうございます。今日は110回目の番組審議となります。皆様よろしくお願ひ致します。それでは稲葉委員長よろしくお願ひ致します。

稲葉委員長：前回はお休みさせていただき、失礼いたしました。今期最後までしっかりと勤めを果たせればと思っております。本日はよろしくお願ひ致します。

山本局長：ありがとうございます。続いて弊社小沢からお願ひ致します。

小沢社長：本日もお忙しい中ありがとうございます。4月で決算が終わりまして、昨年より利益は落ちますが、なんとか利益がでる流れになっております。また正式に決算ができましたら、皆様にご報告させていただきます。これも皆様のご支援のおかげだと考えております。ありがとうございます。本日も忌憚のない審議をよろしくお願ひ致します。

山本局長：それでは、まず前回審議いただきました、「Green&Brown」内の「虹スタが行く～エフエリアの〇〇（まるまる）ハンター」についてご報告させていただきます。審議いただいた番組は小中学生が行っているプロジェクトをレポートしました。レポートするにあたっての分かりやすさ、伝える内容について、ご指摘いただき、より分かりやすい音声のみでの方法について有意義なご意見をいただきました。また、前回取り上げた内容について良い評価をいただき、番組や弊社ラジオ局のPRについてもご意見もいただきました。今後弊社のPRについても、SNSも含めて検討していきたい所存です。ありがとうございました。

続いて、今回審議いただく番組ですが、朝の番組「エフタイムス」内で放送している「美女と野獣のミュージックタイム」です。この番組は富士宮市出身で富士市富士宮市をメインに活動している演歌歌手「稲葉やすひろ」と、熱海で活動している「リンダ・コラソン」さんが出演し、それぞれの活動の報告や予定をナビゲーターの伊藤慶が聴き手として進めているコーナーです。それではご検聴ください。

番組審議

- ・ 審議番組 f-times 月曜日から木曜日 7:00～11:00 内
「美女と野獣のミュージックタイム」10:10～(20分程度)
- ・ 放送日時 令和6年4月22日 月曜日 10:10～
- ・ 出演 稲葉やすひろ/リンダ・コラソン/伊藤慶/佐野裕美
- ・ 番組編成制作方針、説明
- ・ 質疑応答

10分程

小沢社長：まず、私から稲葉やすひろさんの紹介を。私が富士信用金庫時代に知り合い、まだその時は歌手ではありませんでしたが、50歳頃から歌手として活動されています。阿久悠さんが作った歌も歌ったりしているそうです。その後、熱海の個人事務所の方がスポンサーについていただき、この番組が始まりました。

山本局長：それではご審議をお願い致します。

稲葉委員長：それでは始めさせていただきます。今回もざっくばらんに皆さんご意見をお願い致します。

長橋副委員長：熱海の方もこの番組を聴いてらっしゃるんですか？

小沢社長：出演者のリンダさんは熱海でもFM出演していらっしゃるので、インターネット放送などで、弊社の番組を聴いていらっしゃる方はいるかもしれません。

長橋副委員長：この番組は、エフエリアに熱海を宣伝する番組ですか？

小沢社長：稲葉さんとリンダさんを応援している人が熱海の人で、富士市富士宮市にも応援して下さる方を増やそうとしている番組なのかなと思います。ただ、リンダさんはお活動が忙しくなり、来月からは多岐川舞子さんという歌手の方が新たに加わります。

内藤委員：リンダさんが熱海の歌を歌い、稲葉さんも熱海の歌を歌っていて、どちらもそれを紹介している。エフエリアの人たちに熱海をPRする番組なのかと思いました。

山本局長：この番組の形としては、稲葉さんをPRする番組だと思うんですが、稲葉さんをスポンサーとして応援している人が熱海の方で、ですので熱海の曲を歌っているのではないかと考えております。

小沢社長：稲葉さん自身の活動としては、富士市・富士宮市のイベントやお祭りなどで活躍はされているんですが。

長橋副委員長：この番組はファンの人なら喜ぶのだろうけど、それ以外の方が聴いたらあんまりなのかなと思います。

ます。正直あまり興味をもてなかった。あまり辛口の批評はしていないつもりですが、今回審議に取り上げた番組は面白くなかった。

長橋副委員長：富士市・富士宮市で活動している話をもっとあれば良かったと思いますが、普通に雑談している番組だったので。ファンでなければ面白くなかったかなと。

内藤委員：これで番組が成り立っているのかなと。熱海をPRする番組だったら成立するのではないのでしょうか？もし、そういう意図があるならば、もっと熱海の情報を入れた方が良いと思いました。

稲葉委員長：そうですね。稲葉さんをPRしたい番組なのか、熱海をPRしたい番組なのか、どっちつかずの番組でしたね。

長橋副委員長：全然面白くなかった。

稲葉委員長：放送でも話していましたが、お茶摘み体験でお茶の歌を歌ったという所がありました。その話をもっと話せば良かったと思いましたね。

長橋副委員長：今回の放送では、リンダさんが能登復興チャリティーコンサートで北海道の帯広に行っていて、電話での出演でしたが、リンダさんが北海道にいるのなら、北海道の話をする必要がある。帯広の情報が少なすぎたと思います。帯広にいるのなら帯広の情報がもっと必要で、結局、北海道から熱海の宣伝で終わっちゃった様に感じました。

稲葉委員長：帯広にリンダさんがいるって言って、伊藤さんが「何か美味しいもの食べましたか？」と聞いた時に、例えば「帯広はアスパラが美味しいんですよ。」とか、何かを食べる予定だったら詳しく話すなどすれば、話が広がったんでしょうけどね。

内藤委員：帯広って北海道のなかでもどういう所なのか、私自身どういった所なのかわからないので、そういった所を話してもらってよかったですね。

稲葉委員長：北海道の帯広って静岡県の伊豆地域と繋がりがあがる。最初に開拓でいったのが戸田の方だったとか。今も子供たち同士の交流があるそうです。富士宮市・富士市の方でも知っている人多いのかな？と思いますが。昔仕事で帯広に行った時に、「静岡から来ました」とお話しすると、すごく歓迎されました。帯広市の街中は平野部分がすごく広くて良い所なんです。ワインなどもあるそうですよ。

内藤委員：そういった帯広の情報も言ってもらえたら良かったですね。せっかく北海道にいるんですから。

小沢社長：稲葉さんは今何歳ですかね。77歳くらい？声も良い声していますよね。

長橋副委員長：リンダさんがせっかく北海道に行っているなら、もっと北海道の話しをしていただいた方が良いですね。

小沢社長：個人事務所の社長さんがクライアントさんになっっていますので、二人を売り出したいというのもあると思いますし、スポンサーさんの思い入れでやっているのではないのでしょうか。熱海の活動とエフエリアの活動がゴチャゴチャになっているのかもしれませんが、そこで線をしっかり引いた方が良いかもしれませんね。

稲葉委員長：熱海の話をするならもっと熱海の話深くしても良いのではないのでしょうか。その上で富士宮・富士の方にこういう事をしていきますよ。と伝えてあげるなどPRした方が良いのかもしれませんがね。

小沢社長：今回番組審議会用にダイジェストで編集してしまっていたので、流れが分かりづらい面もあるかもしれませんがね。PRについては出演者お二人が頑張っってらっしゃるようですね。

稲葉委員：吉野委員は？

吉野委員：私自身、演歌に馴染みがないんですが。今回の放送を聴きまして、熱海と北海道のパンチが強すぎて、富士富士宮の情報を知りたいと思って聞いている人からすれば退屈だだと思います。ただその反面、富士・富士宮の話をしている間で、この番組が良い意味で息抜きになるのかなと思いました。熱海の話を中心にしたいのであれば、もっと熱海の事にシフトしてしまった方が、良いのかなと思いました。その逆もしかりで、エフエリアの話題を中心に考えているのであれば、もっとエフエリアの話にシフトする方が良いと思います。皆様が仰る通り、どちらにも話が広がっっているんで、どっちつかずになっているんだと思います。しかし、こうして地元で歌手活動をしている方が、原宿でライブをするとか、バースデイライブを地元で開催したり、地元のお茶摘みで一緒にお茶を摘み、歌を歌うといった活動が聞けるのは本当に良いと思います。その上で、今回の放送を聴いて、応援したいとも感じました。それ以外としては、番審用に編集されてカットされているかもしれませんが、曲紹介が浅いなと思いました。地元の曲であれば、「ここを歩いている時に思いついた」などその曲を作った背景を地元で絡めて教えてくれれば、ファンの方が土地巡りもしてくれるのかなと思いました。

稲葉委員長：もう少し稲葉さんのお茶の歌を聴けたらなと思いました。

小沢社長：ここ最近稲葉さんのお茶の歌がリクエストされていませんが、以前はリクエストが沢山きていて放送していましたね。地元でもまだまだ知られていないアーティストかもしれません。

稲葉委員長：もしかしたら、稲葉さん本人も恥ずかしがりやなのかもしれませんね。伊藤さんがせっかくお茶摘みの新聞記事を見たとき、話をふっっているのに、その時の体験談をもう少し話したり出来たら良かったと思いました。そうすれば地元でも一生懸命やっってくれているんだ、っという気持ちになると思います。本人たちの近況報告も良いですが、時間も足りていないんじゃないのでしょうか？もっと地元で貢献しながら頑張っっているという情報があると良いですね。

吉野委員：もうちょっと地元で密着した活動をしている事をPRした方が、共感が持てるかもしれませんね。

山本局長：今回の審議を聴いておりまして、コミュニティエフエム放送ならではのいい所、非常に難しい所、ご意見、宿題をいただいているなと感じております。併せて制作意図の重要さも。こういったスポンサーや出演

者がいて、スポンサーさんとそれに関わる出演者さんがいて、スポンサーさんと出演者さん達に対して、こちらから「思うようにやってください。」という風になってしまいます。そこで、「今回は稲葉さんの歌にフォーカスをあてましょう。」とディレクターや制作者なりが言える環境作りが必要なのかもしれません。今回の場合は伊藤慶と番組ディレクターですね。その制作者側が「今回は北海道にフォーカスをあてましょう。」「今回は稲葉さんの歌にフォーカスをあてましょう。」「今回はリンダさんの人生にフォーカスをあてましょう。」など1回1回ごとにフォーカスをすれば、それぞれの放送回が生きるし、より散漫な印象にならないで済むのかなと思う所でもあります。改めて制作といいますか、ディレクション、そういった大切さを今実感した様な所があります。

長橋副委員：リスナーがいますから、そのリスナーが離れる原因になる内容は好ましくないかもしれませんね。スポンサーの意図は非常に良く分かります。熱海にフォーカスしても良いとは思いますが、それでリスナーが離れていくのは良くありませんね。

山本局長：ディレクターもアルバイトの様な人もいますし、指示や提案、アドバイスが出来ない人もいます。それを改善するには難しい事かもしれません。僕ら自身、耳が痛い話ですが、こういった場でお話をいただく事が必要と感じております。局内で番組について、こうだあだと話す機会がないので、非常にありがたいです。

稲葉委員長：せっかく生放送でやっているのでも、現場の話がもっと聴ける環境になれば良いですね。それではお時間になりましたので、今日はここまでにしましょう。

山本局長：ありがとうございました。

小沢社長：ありがとうございました。

次回7月17日水曜日に番組審議委員会を開催いたします。

皆様よろしくお願ひ致します。

議事録の公表：令和6年6月1日 自社ホームページにて公表